

上下水道部編

水を守り 生活を守る

市の政策を連載で紹介いたします。
第10回は、安全で安心な水道水、
下水道の管理を担う上下水道部の
注目施策を紹介いたします。

注目1

いつでもどこでもおいしい水を 水道施設の環境整備

飲み水がご家庭に届くまで

市の水道水は、北アルプスに降った雨や雪、田んぼの水などが長い時間をかけてゆっくりと地下にしみ込んだ地下水を利用しています。水は地下にしみ込む間に、砂や土、小さな石を通ることで汚れが取れ、土の中に住む微生物の働きで自然にきれいになっていきます。



配水池タンク内清掃の様子。市内49カ所すべてに潜水士が潜って清掃します。

総延長約112.8kmの水道管を通り、皆さんのご家庭に届きます。

安全な飲み水の管理

井戸から水をくみ上げる際、わずかに砂が含まれることがあり、その砂は配水池のタンク内に蓄積されてしまいます。また、地震によって突然井戸が濁る場合があります。濁った水が配水池に入ると、安定供給ができなくなる恐れがあります。

そのため市では、毎年数カ所ずつ潜水士によるタンク内の清掃を行います。計画的に井戸に濁度計を設置し、濁った水が配水池に入らないよう常時監視するなどして、安全な飲み水を維持しています。

古くなった水道管を順次更新

市内には、昭和40～50年代当時に整備された水道管が残っており、経年劣化による破管で漏水が発生して

しまう箇所も見受けられます。漏水がひどくなると断水したり、漏水箇所が陥没したりといった状況を招くことがあります。そのため市は、平成29年3月、安曇野市水道ビジョンを策定し、計画的に経年劣化した水道管を更新しています。

くみだし水をきれいにする

市では、水の地産地消とプラスチックごみ削減を目指した新しい取り組みを進めています。

昨年度は、アウトドアメーカー「モンベル」とコラボしたオリジナルクリアボトル1000個を限定販売したほか、ANCアリーナ北側と穂高駅前の2カ所に給水ステーションを設置しました。今後、さらに給水ステーションを増やしていきます。



給水ステーション

また本年度は、市内で給水ができる場所を掲載したマップをつくり、市HPで公開していきます。

上下水道部の仕事

水道・下水道の管理運営を担当

上下水道部は、経営管理課、上水道課、下水道課の3課で構成されます。水道管の工事や維持、水道メーターの設置や点検、水質の点検といった水道水の管理や、下水道施設の維持管理、水道料金や下水道使用料の収納管理を行う部署です。上下水道部は、安曇野市が経営する公営企業として上下水道事業の運営を行っています。上下水道料金などで収入を得て、老朽化した施設の修理などを行い、皆さんに安全な水をお届けしています。



注目2

路上に映える安曇野らしきデザインマンホール

地域をマンホールで表現

市内で見かけるマンホールのふたは、合併前の旧5町村時代に作られた地域によってさまざまなデザインのものがあります。豊科は白鳥、穂高はシャクナゲ、三郷はリンゴ、堀金はカタクリ、明科はアヤメと、その地域の特色を表現しています。

市では令和元年、市民の皆さんの暮らしを支える下水道に関心を持ってもらうことや、観光に訪れた人にも楽しんでもらえるよう新しいデザインのマンホールふたを作成することにしました。

デザインを募集したところ105件の応募があり、市民投票の結果「水



新しいマンホールふたのデザイン「水鏡」

一口メモ

市には浄水処理場がない!?

一般的に、水道水は浄水処理場で水をきれいにしていますが、市には浄水処理場がありません。理由は、地下水がそのまま飲めるくらいきれいな水だから。水道法の決まりによって、塩素をほんの少し注入する滅菌装置があるだけなのです!

水を届ける生命線 給水車

災害などによって断水したときに活躍する給水車。市では現在2台配備しており、断水地域はもちろん、被災地などに水を届けます。運べる量は2台で約5.5トン。最近では三郷西部認定こども園が断水した際に水を届けました。



鏡」が選ばれました。田植えの季節、水を張った田んぼに映し出される残雪の常念岳と道祖神が、特産のリンゴの中に描かれているデザインです。現在は豊科駅前と穂高駅前の2カ所に「水鏡」のカラーマンホールが設置されています。今後は取り換えが必要なふたと順次交換していきます。

大人気!デザインマンホール

昨年4月、下水道広報プラットホームが発行する全国607自治体のマンホールのふたを描いた「マンホールカード」に安曇野市が加わり、配布を始めました。



マンホールカード



売却した使用済みマンホールのふた

表面には写真と設置位置の座標、裏面にはデザインの由来が記載されており、現在の累計配布数は約3400枚と、全国のコレクターから人気を集めています。また、本年1月には使用済みマンホールのふたを販売しました。いずれも旧町村時代のデザインでしたが、10点の販売に対し151人の応募がありました。今後定期的な使用済みマンホールふたの売却を行い、財源の確保に努めていきます。

持続可能な公営企業運営に向けて

上下水道部は、ライフラインである水道水の安定供給、汚水の排除処理を行っており、社会基盤を下支えするこれらサービスの供給を公営企業として行っています。

老朽化したインフラへの対応や自然災害への対策の必要性がより増加していますが、公営企業である以上、経営の効率化が一層求められています。持続可能な経営の実現に向けて、各事業の基本計画に基づき、施設等の更新の最適化やコスト削減、地震や水害に柔軟に対応できる体制づくり等を着実に推進していきます。

部長ミニインタビュー



上下水道部長 堀内 寅生